

# 第14回

## 台東区子供歴史・文化検定

### 解答と解説（小学生用）

解説文の最後に、参考として『台東区歴史・文化テキスト』の頁数を掲載しています。

台東区教育委員会



問1. 正解 エ

アの鎌倉幕府は源頼朝が鎌倉に、イの室町幕府は足利尊氏が京都に開きました。織田信長は安土に城を築きましたが、幕府は開いていません。(第三版18頁、第四版17頁)

問2. 正解 ア

貝塚があることから、上野桜木のある上野台は海に近く、人が住んでいたことが分かります。(第三版15頁、第四版15頁)

問3. 正解 ア

古墳時代の人々は、地面を掘り下げ、柱を立てて、ワラやカヤなどで屋根をふいた、竪穴住居に住んでいました。イの長屋は江戸時代、ウの文化住宅は大正時代から建てられ、エのアパートメントハウス(アパート)が最初に建てられたのは明治時代のことです。(第三版14～15頁、第四版14頁)

問4. 正解 ウ

桜はソメイヨシノを中心に50種類、約800本ほどあります。(第三版20～22頁、第四版19～21頁)

問5. 正解 イ

東本願寺ではなく、谷中の感応寺(現在の天王寺)での富興行(富くじ)が公認されました。(第三版24～27頁、第四版22～25頁)

問6. 正解 エ

日本での飛行機による初飛行は、代々木練兵場(現在の代々木公園)で1910(明治43)年に徳川好敏と日野熊蔵によりおこなわれました。(第三版29頁、第四版27頁)

### 問7. 正解 イ

現在、台東区は大きく上野地区と浅草地区に分けられますが、「上野」という地名は、江戸時代、上野寛永寺とその門前町にしか使いませんでした。一説には、江戸幕府の影響を色濃く感じさせる地名でしたので、1878（明治11）年の15区制では「上野」を使わず、「下谷区」という地名が選ばれたと言われています。上野や谷中を含む下谷区と、蔵前などを含む浅草区という、特色溢れた2区の合併により、台東区は生まれました。その地域の特徴は、現在もいろいろな形で引き継がれています。（第三版32・42頁、第四版29・30・38頁）

### 問8. 正解 ウ

凌雲閣は、その通称「十二階」とおり、煉瓦造りの十二階建ての塔でした。高い建物のほとんどなかった当時、そびえ立つ十二階の塔は人々の近代化への憧れと最先端の技術の結晶でした。日本初のエレベーターが設置されたのも、この凌雲閣です。残念ながら、関東大震災による影響で崩れたため取り壊されてしまいましたが、日本の近代化の象徴のひとつとして、忘れてはならない建造物のひとつです。（第三版35・107・188頁、第四版32・96・168頁）

### 問9. 正解 エ

靴は編み上げのブーツでした。ハイカラの由来は英語の丈の高い襟「ハイカラー」です。西洋風で目新しくしゃれていることを「ハイカラ」と呼び、西洋風のひさし髪をハイカラ髪といい、その髪型をしている人をハイカラさんと呼びました。（第三版51頁、第四版47頁）

### 問10. 正解 エ

台東区は江戸時代より花の名所が各所にあり、今でも多くの人を訪れます。花を愛する心は人に対する思いやりを育み、うるおいのある町づくりにつながります。（第三版71頁、第四版65頁）

問11. 正解 ア

江戸の住民（長屋の借家人を除く）は石高や家の幅（間口）によって決められた水道料金を負担しました。亀有上水・青山上水・三田上水・千川上水は1722（享保7）年に廃止されました。家庭からの排水や雨水などは下水道に流されました。（第三版49～50頁、第四版45頁）

問12. 正解 ウ

瓦版は、江戸時代から明治時代にかけて数多く摺られた、現在の新聞や雑誌などにあたる大衆向けの印刷物でした。（第三版67～68頁、第四版61～62頁）

問13. 正解 ウ

関東大震災では、下町の住宅密集地を中心に火事で多くの住宅が焼けてしまいました。その後学校をつくる時に、学校の隣や近くに公園を設けることによって、避難場所としました。（第三版64頁、第四版59～60頁）

問14. 正解 ア

食料不足が深刻になると、少ない食料品をお互いに分けあう配給制度が1940（昭和15）年から行われました。まず砂糖、翌年からは米や小麦・酒類・魚・塩・みそ・しょうゆ・乳製品・パン・野菜・果物・菓子などが配給制になりました。（第三版56～57頁、第四版51～52頁）

問15. 正解 ア

再生紙はもともと浅草周辺でつくられたため、浅草紙と呼ばれました。紙製品以外にも様々なものがリサイクルされました。（第三版58頁、第四版52～53頁）

問16. 正解 イ

江戸時代後期の嘉永かえいから安政期あんせい（1848～1860）頃、江戸では朝顔あさがおが大ブームとなり多くの変化朝顔が生み出されました。明治期に入ると一旦ブームは衰おとろえますが、1882（明治15）年頃から入谷たんぼ田圃といわれた地域の植木屋うえきやが栽培さいばいを行うようになります。入谷の朝顔市は江戸時代後期から行われていたものが一度途絶とだえ、1948（昭和23）年に復活ふっかつして、現在の形となっています。菊まつりは、台東区内はもちろん各地で行われる秋の風物詩ふうぶつしのひとつでした。梅園ばいえんは、亀戸かめいどや蒲田かまたなど江戸の郊外こうがいを中心に、錦絵にしきえにも描かれた名所がありました。（第三版72頁、第四版65頁）

問17. 正解 ウ

富士山の頂上には、「浅間大社せんげんたいしゃ」と呼よばれる神社があります。江戸時代、多くの人びとが、それを目指して登りました。富士登山は、参拝さんぱいでもあり、レクリエーションでもあったのです。しかし江戸時代、女性は富士山に登ることを禁じられていました。また、病気けがや怪我こうれい、さらには高齢こうれいなどにより本物の富士山に登れない人たちのためにも、富士塚は大切な役割やくわりを果たしていったのです。（第三版60頁、第四版54頁）

問18. 正解 ア

区内には、寛永寺かんえいじと浅草寺せんそうじに「時の鐘ときかね」があります。現在でも毎日、寛永寺は朝夕6時と正午、浅草寺は朝6時に鳴らされています。（第三版67頁、第四版56～57頁）

問19. 正解 エ

江戸時代以来の手仕事の職人しよくにんは、機械きかいの導入どうにゆうなどによって減っていきました。（第三版74頁、第四版68頁）

問20. 正解 ア

この問題は台東区の地域と職種しよくしゆにも関係します。(第三版81頁、第四版74頁)

問21. 正解 ア

江戸後期、背中に「𦉳」の紋様もんようのある招き猫まねねこの人形は、「丸𦉳猫まるしめのねこ」と呼ばれ、「福やお金を丸くせしめるひと (独りじめする)」という縁担ぎえんかつの土産物みやげものとして人びとに好まれ、浅草寺の境内などでも売られました。そのため今戸は、招き猫はっしょう発祥の地のひとつともいわれています。1852 (嘉永5) 年に描かれた歌川広重うたがわひろしげの錦絵にしきえにも、今戸焼の丸𦉳猫が売られている様子が描かれています。(第三版78頁、第四版71頁)

問22. 正解 エ

つけ櫛ぐしは、静電気が起きにくく、髪かみや地肌やさにも優しいということから、昔から愛用されてきました。(第三版75頁、第四版69頁)

問23. 正解 ウ

飲食店向けの食器、家具、道具などをあつかう「かっぱ橋道具街」の名は全国に知られています。アは御徒町おかちまち、イは花川戸、エは浅草橋・蔵前くらまえが中心になっています。(第三版113～114頁、第四版101～102頁)

問24. 正解 エ

乗合馬車のりあいばしゃ、鉄道馬車、路面電車が走り始めたのは明治時代で、自動車が日本で普及ふきゆうし始めたのは昭和時代になってからです。(第三版84～86頁、第四版77～78頁)

問25. 正解 イ

舟を使うと荷物をたくさん運ぶことができました。江戸時代には堀割（用水路）や排水路（はいすいろ）や土手（ていぼう）などがつくられ、台東区内には川や水路が網（あみ）の目のように流れていました。（第三版89～90頁、第四版80～81頁）

問26. 正解 ウ

門前町（もんぜんまち）が成立することによって、その周辺（しゅうへん）も発展し、市街地化（しがいちか）がいつそう進む（こうか）という効果もありました。（第三版105頁、第四版95頁）

問27. 正解 エ

台東区では、江戸時代から現在にいたるまで様々な産業が発展してきました。（第三版112～113頁、第四版101～102頁）

問28. 正解 ア

宮司（みやうじ）が弓矢（ゆみや）を射ることで、鬼（おに）や病霊（びょうれい）を払（はら）う儀式（ぎしき）で、毎年2月の節分（せつぶん）に行われます。（第三版117頁、第四版105頁）

問29. 正解 ア

火渡り（ひわた）神事は11月6日に秋葉神社（あきは）で行われる（さいらい）祭礼（さいらい）です。（第三版125頁、第四版111頁）

問30. 正解 イ

流鏝馬（やぶさめ）とは馬（ま）に乗って3つの的（まと）を矢（や）で射（や）る勇壮（ゆうそう）な催（もよお）しです。（第三版119頁、第四版106頁）

問3 1. 正解 エ

江戸時代に流行した朝顔は今では区の花に指定されています。毎年7月に開かれる入谷朝顔祭り(朝顔市)は、大勢の人でにぎわいます。(第三版122頁、第四版109頁)

問3 2. 正解 ウ

年末の酉の市では「福を掻きこむ熊手」として、お多福や千両箱、稲穂などをつけた熊手が縁起物として境内で売られています。(第三版124頁、第四版111頁)

問3 3. 正解 エ

新堀川がたびたび氾濫して住民が苦しんでいたため、合羽屋喜八が私財を投げ出して川を広げる工事を行いました。この時工事を手伝ったのが隅田川のかっぱたちだという伝説があります。(第三版129頁、第四版115頁)

問3 4. 正解 エ

下谷神社は1923(大正12)年、関東大震災で焼失しましたが、この絵が描かれた後の第二次世界大戦の空襲の際にはまったく損傷がありませんでした。日本画の巨匠横山大観によって描かれた天井絵「龍」が神社を火事から守ったといわれています。(第三版139～140頁、第四版123頁)

問3 5. 正解 エ

目黒不動は、現在の台東区三ノ輪にある永久寺にあります。七福神のうちの目黒不動、目白不動については、現在の山手線の駅名である「目黒駅」「目白駅」の由来ともなっています。(第三版135頁、第四版120頁)



問36. 正解 エ

エは横山大観よこやまたいかんについての解説です。(第三版158～164頁、第四版143～148頁)

問37. 正解 ウ

シーボルトはドイツの医学者・博物学者いがくしゃです。1823(文政6)年ぶんせいに長崎にやってきました。日本に関する書物をいくつか残しています。高橋景保かげやすはシーボルトに外国持ち出し禁止きんしの日本地図おくを贈ったことにより、牢獄ろうごくに入れられ、そこで亡くなりました。(第三版148頁、第四版137頁)

問38. 正解 エ

池波正太郎いけなみしょうたろうは1923(大正12)年に生まれ、2023(令和5)年せいたんに生誕100年を迎えました。上野・浅草あさくさを故郷とし、江戸の下町ぶたいを舞台とした数々の時代小説を残しました。台東区立中央図書館内には、池波正太郎記念文庫もんくが設けられています。(第三版169頁、第四版152頁)

問39. 正解 エ

谷中ショウガやなかは今でも広く日本人に食されています。(第三版152頁、第四版131頁)

問40. 正解 ア

ロッシュろっしゅは駐日ちゅうにちフランス公使、パークスは駐日イギリス公使、ゴローニンごらうにんはロシアの軍艦ぐんかん「ディアナ号」の船長です。(第三版166頁、第四版149～150頁)

#### 問4 1. 正解 ウ

日本は、古代より中国から暦こよみを輸入し、それをそのまま用いて毎年の暦をつくっていました。日本が天体の観測かんそくと計算どくじにより、独自の暦をつくれるようになったのは、江戸時代になってからです。浅草天文台での観測によってつくられたのが1798（寛政10）年～1844（天保14）年に使用された寛政暦かんせいれきでした。至時・景保親子よしとき かげやすは、フランスの『ラランデ暦書』（オランダ語版）を翻訳するなど、西洋天文学を学び、暦の編纂へんさんに取り入れました。（第三版144～147頁、第四版136～137頁）

#### 問4 2. 正解 イ

落語らくごは最初、大名屋敷などで一部の人たちの楽しみのために行われていました。その後、一般いっぱんの人たちも楽しめるようにと、1797（寛政10）年に榎職人の又五郎またごろう（初代三笑亭可楽さんしょうていからく）が素人の噺家はなしかとして、下谷稻荷（下谷神社）の境内で入場料を取って落語会を開きました。（第三版189頁、第四版169頁）

#### 問4 3. 正解 エ

当時は警察官けいさつかんが手動で信号機そうきを操作していました。（第三版188頁、第四版168頁）

#### 問4 4. 正解 ア

ソメイヨシノは、吉野桜よしのざくらなどと呼ばれていましたが、上野の博物館員の藤野寄命ふじの きめいにより1900（明治33）年にその名が発表され、広く知られるようになりました。（第三版177頁、第四版159頁）

#### 問4 5. 正解 ア

上野公園では、「富国強兵ふこくきょうへい、殖産興業しょくさんこうぎょう」の近代化政策を進めていた明治政府によって、3回の内国勸業博覧会ないこくかんぎょうはくらんかいが開かれました。これ以外にも各種の博覧会が何回も開かれました。（第三版172頁、第四版154頁）

問46. 正解 イ

講道館こうどうかんは現在、文京区にあります。柔道は世界に広く普及し、オリンピック種目にもなっています。(第三版189・190頁、第四版169・170頁)

問47. 正解 ア

旧岩崎家住宅は三菱財閥3代目当主の岩崎久彌ひさやにより建てられました。(第三版209頁、第四版189頁)

問48. 正解 エ

朝倉彫塑館あさくらちょうそかんは、彫塑家ちようそかの朝倉文夫ふみおがアトリエ兼自宅として使用していた建物を一般に公開しているものです。(第三版195頁、第四版175頁)

問49. 正解 イ

樋口一葉ひぐちいちようは明治時代の女流作家です。一葉の代表作『たけくらべ』は、下谷龍泉寺町りゅうせんじまちに住んでいたときに構想こうそうを得て執筆えしつされました。(第三版197頁、第四版177頁)

問50. 正解 エ

正岡子規まさおかしき(1867～1902)は、明治時代の俳人・歌人はいじん かじんとして有名です。幕末ばくまつの愛媛県松山市に生まれ、近代を代表する俳人として活躍かつやくしました。生涯しょうがいで54もの雅号(ペンネーム)を用い、親交のあった夏目漱石なつめそうせきの「漱石」も、元は子規のペンネームのひとつだったそうです。ちなみに、「子規」は「ホトトギス」という意味です。(第三版211頁、第四版191頁)

